

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 9名	(依頼数) 12名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870800202
事業所名	グループホームレオナ
(ユニット名)	2階ユニット
記入者(管理者)	
氏名	表内 咲子
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>自分らしく生きていく(生きる歓びをかんじられる生活)にしていきたい。ありがとうが言い合える心豊かな関係を作りたい。個性を尊重し人の嫌がることをしない。地域社会の一員になる。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>継続性を持って取り組み、意見や提案を言いやすい関係作りを目指したが、交流が減り まだまだ十分にはできていないと思います。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のある3階建て建物は母体医院に隣接しており、1階にはデイサービスがあるほか、2階と3階の部分をグループホームとして活用している。開設から20年経過した事業所は住宅街に位置し、現在のコロナ禍においても、利用者が事業所周辺を散歩したり、個人商店などに買い物に出かけたりすることができおり、出会った場合には地域住民から声をかけてもらうなど、地域に根づいた事業所となっている。事業所の1ユニットの利用定員数は6名で、利用者と職員が明るく楽しそうに話しをする様子が見られ、家庭的な居心地良さを感じることができた。また、事業所の各ユニットでは、利用者同士や職員同士、利用者と職員が良好な関係で、「お互いに笑顔で『ありがとう、ご苦労様』など声をかけ合い、6人のお母さんと生活をしているような職場」との話しを聞くことができた。さらに、法人では、2003年の事業所の開設時から、介護情報発信の目的として「レオナ新聞」を作成し、ホームページに掲載しているほか、小冊子にもしている。新聞には、心温まるような職員と利用者の関わりや職員の日々の思いなどが掲載され、ほろりと感じる内容となっている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入所時や日々の会話の中で、本人の思いを引き出し把握できるよう努めている。</p> <p>本人の表情や発言から、気持ちをくみとれるよう努力し検討している。</p> <p>家族の面会時、本人の気持ちや思いについて一緒に話し合っている。</p> <p>アセスメントを行い記録し、共有している。</p> <p>常に本人の立場になって気持ちを考えるよう努めている。</p>	◎	◎	◎	<p>入居時に、職員は利用者や家族から思いや意向などを聞き取り、センター方式のアセスメント表に記録している。また、日々の関わりの中で、職員は利用者から情報を聞くこともあり、新たに得た情報は、更新時に追記している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人との毎日の会話から、昔の話やこだわりなどを聴いている。</p> <p>日々過ごす中で、ちょっとした心身の変化にも気づけるよう現状把握に努めている。</p> <p>利用者と接していく中で、一人ひとりの個性や性格を把握している。</p> <p>不安、不安定な様子が見られた際には、要因について職員で話し合い把握に努めている。</p> <p>申し送りや記録を通して、一人ひとりの生活リズムや変化の把握に努めている。</p>	◎	◎	◎	<p>入居時に、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過などの聞き取りをしている。入居前にも、職員は以前担当していた介護支援専門員からも情報を聞くこともある。また、把握した情報はアセスメント表に記録しているほか、新たに得た情報は、更新時に追記している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>日頃の何気ない会話の中からも本人の思いをくみ取り、本人を主体とし検討している。</p> <p>本人を主体とし、カンファレンス等で意見交換し検討している。</p> <p>検討した内容から、介護計画書を作成している。</p>	○	○	○	<p>事業所では、日々の関わりの中で得た利用者の情報のほか、家族からの意見を基にして、カンファレンスを活用して職員間で話し合い、利用者の視点に立ったサービス内容を検討している。</p>

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いを本人・家族から聞き取り入れている。				事前に、職員は利用者や家族から、より良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などの希望や意向を聞き取るほか、主治医の助言をもらうことができている。また、事前に得た情報を基にして、カンファレンス時に職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に意見を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族には、来訪時や電話で事前に意見を聞き介護計画に反映して作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方でも居室内ばかりで生活することがないように出来る限り食堂にて過ごせる機会を作れるようプランを立てている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族からの聞き取りを行っているが協力を得られないご家族もある。コロナの影響にて地域との関わりも少ない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画書を職員全員が把握・理解しており、共有できている。				◎ 介護計画の内容は、カンファレンス時に職員間で共有しているほか、個別ファイルにも計画を挟み、職員はいつでも内容を確認することができる。介護計画の内容が転記されているA3サイズの個別の介護計画チェック表には、1か月間分のケアの実施記録やチェックができ、職員は毎日のサービスの実施記録を残し、翌日の支援につなげている。また、利用者の日々の暮らしの様子や支援した内容は、個別の介護記録にも記載され、利用者の発した言葉が多く残されているのを確認することができた。さらに、職員は利用者一人ひとりの気づきや工夫などを、個別のモニタリング表や申し送りノートにも記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々、介護計画をチェックし実践できたか記録しており、その結果を職員間で把握し日々の支援に繋げている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録に言葉・表情等、具体的に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	些細な気づきや工夫等を記録したり話し合ったりして日々の支援に繋げている。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	三ヶ月毎にモニタリングを行っており、達成・継続で判断し計画の見直しを行っている。				◎ 介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。必要に応じて、2か月など早期に見直すこともある。また、職員は毎月利用者の現状を確認し、モニタリング票に記録しており、利用者の変化や新たな要望なども把握している。さらに、利用者の心身の状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度主治医の助言を得るほか、家族の意向を確認して職員間で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日々の申し送り、介護記録を確認しながら、月1回現状を記録している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合、本人・家族・職員間で話し合い、現状に応じた新たな介護計画を作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に話し合う機会を作っている。緊急案件の場合も随時、話し合いの場を作っている。				◎ 事業所では、毎月実施する月例会を活用して、利用者の課題解決などの話し合いをしている。緊急案件がある場合には、その都度各ユニットの管理者が話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、会議の資料を見てもらいながら、伝え忘れがないよう2名体制で口頭での伝達もしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	常に自分の思いが言い合えるようなコミュニケーションをとっている。会議では、相手の意見を否定しない意見交換の場を作っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来るだけ、参加できるような日時、場所を考えている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	参加できなかった職員には、後日、資料と報告をしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	朝・夕の申し送り時、伝達すると共に申し送りノートに記載し共有している。				◎ 日々の申し送りを活用して、伝達をしている。また、申し送り事項は申し送りノートにも記録し、職員は出勤時等にノートを確認して、押印またはサインをする仕組みができている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な情報は、申し送り時に伝達すると共に申し送りノートに記載し全ての職員に伝わるようにしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中から導き出したり、その日の体調・状態を考慮したりと叶える努力をしている。	/	/	/	利用者に着たい服やレクリエーション、食べる時に使用する箸など、職員は利用者が自己決定できるような声かけをしている。自己決定の難しい利用者には、職員が選択肢を絞って声をかけるなどの工夫をしている。また、訪問調査日には、利用者が若い頃にしてきた仕事を、他の利用者や職員と一緒に楽しそうに話したり、職員の声かけで利用者が活き活きとベダルこぎをしたりする様子を見ることができた。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	急いんだり慌てる事のない雰囲気の中で自己決定できる機会をつくっている。	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声かけ・会話・表情・しぐさの中から、利用者の思いや希望した暮らしができるよう支援している。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々のペース、習慣、その日の体調や気分等を大切に支援している。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しく穏やかに過ごせるような表情を見ながら言葉かけを行うよう努めている。	/	/	/		/	◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情・仕草等しっかりと観察して、本人の望む暮らしができるよう支援している。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の誇りやプライバシーを大切に常に言葉かけ、接し方に意識して行動するように心がけている。	/	/	/	◎ ◎ ○		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	人生の先輩として敬意を払い、プライドを傷つけないよう配慮している。	/	/	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時の移動時においても羞恥心等に配慮して介助を行っている。	/	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りの際は、必ず利用者に声かけを行い、同行もしくは許可を得る。	/	/	/	/	/	○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者のプライバシーの保護や個人情報漏洩防止について理解し遵守している。	/	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者から教えてもらう事も多くあり、常に対等の立場である。助けてもらった際には、お互い感謝し合える関係づくりに努めている。	/	/	/	/	利用者同士の仲は良く、日中は食堂で楽しそうに過ごしている。時には仲が良すぎて、些細なことでトラブルになる場面も見られることもあるが、職員はすぐに利用者同士を引き離すことなく、間に入って双方の話を聞くなどの対応をしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士がともに協力し合える事の大切さを理解できている。	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者同士が過ごせる配慮、トラブルを引き起こさない配慮、孤立のない雰囲気作り等に努めている。	/	/	/	/		◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに対しては、個別に傾聴するなど当事者に寄り添い解消に努めている。	/	/	/	/		/

愛媛県グループホームレオナ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時のアセスメントや本人から聞いた人間関係を職員全員が把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時のアセスメントや本人・家族から聞いた話から、職員全員が把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	近況の手紙や行事案内のハガキを出したりしている。今年に入って、新型コロナの影響で外出を控えている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	今年に入って、新型コロナの影響で面会を控えている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天気の良い日は駐車場で日光浴をしたり、施設周辺を車椅子使用で散歩していたが、新型コロナの影響で外出する機会が困難になってきている。	○	△	○	現在のコロナ禍において、事業所では利用者の外出制限を設けているものの、利用者の希望に応じて、事業所周辺を散歩したり、近くの個人商店にパンやバナナなどの買い物に出かけたり、お店にケーキを買いに行くなど、職員は可能な外出支援をしている。また、車いすの利用者も一緒に散歩に出かけたり、事業所前の駐車場に出て、日光浴をしたりするなど、気分転換ができるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出は施設職員が外出支援している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	施設前で車椅子を利用し、日光浴を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	定期的に車で外出できるよう支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修などを通して認知症についての理解に努め、日々の介護に活かしている。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりの「できること・できないこと」を把握してシートに記録し、職員間で共有している。職員は、利用者のできることやできそうなことには極力手をささず、一緒にしたり見守りをしたりしている。また、入浴時には、「洗髪は、髪が長いので職員が行う。洗身は、タオルに石鹸をつけて手渡すと、自分で洗う。届かない部位や洗身不十分な部位は、職員が洗う。」などの記録に沿って、職員は支援することができている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	体操や歌を歌うなどのレクリエーションを取り入れ、身体機能の低下予防・維持・向上に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者のペースに合わせて、見守りや一部介助を行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の特技や趣味を把握している。	/	/	/	野菜の皮をむいたり、洗濯物をたたんだりするなど、事業所では利用者の役割や出番がつかれるよう取り組んでいる。訪問調査日には、職員の見守りの中で、利用者が献立ノートに昼食のメニューを記録している様子を見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者のできる事を把握し、役割を持つことで喜び・楽しみに繋がる取り組みを行っている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	外出できない状態でもあり、地域の中で支援ができていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個々の利用者について把握している。				訪問調査日には、食堂に集まっている利用者が、まゆ毛の書き足しや化粧をしたり、髪にリボンをつけたり、髪をまとめてシシュを飾るなど、利用者が華やかな服を着て、おしゃれを楽しみながら話している様子を見ることができた。また、整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員が利用者に声をかけて、さりげなくカバーをしている。散髪は、2か月に1回訪問美容を活用したり、馴染みの美容室に出かけて整容したりする利用者もいる。さらに、重度な状態であっても、職員は好みの髪形や服装を家族に聞くほか、利用者の昔の写真を参考しながら、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	入所時に化粧品やお気に入りの服などを持参され、靴などの購入の際は本人の好きなデザインを選んでもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちに寄り添えるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事や外出の際は、化粧をするなど、その人らしいお洒落を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の気持ちに配慮し、さりげなく支援している。	◎	○	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	訪問美容を利用して、本人の望む髪型にできるようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	以前の写真などを参考にし、その人らしさが保てるよう、日々、更衣・整容を支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。				◎ 利用者の希望を取り入れながら職員が献立を作成し、うどんは2階、いなりずしは3階などと役割を分担しながら職員が調理をしている。食材は、職員が買い出しに行ったり、近隣住民から野菜などの差し入れをもらったり、ペランダの菜園で栽培した旬の夏野菜などを使用している。コロナ禍以前は、つくしが生えると利用者と一緒に取りに行き、袴取りなどの下ごしらえをしたり、野菜の皮むきなどを手伝ったりしながら調理することができていたが、現在は感染症対策のため、職員のみで調理している。現在も、おはぎなどのおやつと一緒に会話しながら作ったり、食後には利用者と一緒に食器やトレイ、テーブル拭きなどを手伝ったりすることはできている。アレルギーのある利用者には、代替えの品を用意している。茶碗や湯呑み、箸などは、使い慣れた物や使用しやすい物を家族に用意してもらっている。また、重度な状態であっても、日中は台所の横の食堂で過ごしてもらい、利用者は調理の音や匂いを感じ、職員とメニューなどの話をしながら、食事が待ちどおしくなるような雰囲気づくりをしている。現在のコロナ禍において、各ユニット2名の職員が利用者の見守りや食事介助をして、利用者が食べ終わった後に、食堂で職員が食事を摂っている。さらに、事業所では、保健師から「バランスの良い献立の立て方」や「高齢者が食べやすい食事の工夫」などの講習を受け、台所にその内容を掲示して、常にバランスの良い献立になるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	利用者のレベルに合わせて、できる事を手伝わってもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食器の片付けやテーブル拭きなど、自分の役割を感じて取り組んでもらえている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時のアセスメントシート等から、把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感を感じる食材、山菜などの食材や郷土料理を取り入れ、昔を思い出しながら食事を楽しんでもらっている。				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者個々の身体機能、健康状態に合わせて調理、盛り付けを行い、美味しく食事できるように工夫している。(食材の硬さや大きさなど)				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時に使い慣れた茶碗等を持参されている。また、利用者の状態に合わせて、使いやすい物を検討・購入している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	×	個々の様子を見守り、声かけしながら食事介助を行っている。職員は、一緒に食事を摂っていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の匂いや音を感じられるよう調理中は食堂で過ごしてもらい、その日の献立について声をかける等、会話だけでも参加できる工夫をする。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一日の献立内容、利用者の食量や水分量を把握できるよう記録している。				
		k	食量量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養にならない様、ハイカロリーゼリー・エンシュア等を摂取したり、好みの飲み物を飲む事で脱水にならない取り組みをしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立表を毎日記録し、料理がマンネリにならないよう気を付けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員全員で衛生管理を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員全員、理解できている。				入居時に、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握し、口腔ケアアセスメントシートに記録している。変化が見られた場合には、その都度追記して職員間で共有している。また、毎食後、利用者は歯磨きを行い、職員は声かけや磨き残しなどのフォローをしているほか、口腔内の状況も確認している。さらに、利用者の口腔内の状態に応じて、糸ようじや歯磨きティッシュなどの用品を用いた介助をすることもある。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアアセスメントシートにより、職員全員が把握できている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士から、口腔ケアの指導を受け歯間ブラシを使用する等、支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	個々に応じて適切に支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後、毎回、職員が見守り介助し支援している。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常、不具合があった場合は、家族と相談し対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解できている。				事業所では、利用者がトイレで排泄することを基本として支援している。重度でも、座位が保持できる利用者には、日中には紙おむつからリハビリパンツに履き替えてもらい、2人体制で排泄介助をする取り組みもしている。また、職員は利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握して、声かけや誘導をするほか、その時々状態に合わせて、適切な紙パンツやパッドなどの排泄用品を使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介護記録に毎日記録し、それをもとに把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	重度の利用者を除き、トイレに座る事を習慣づけている。オムツ等は、利用者の状態に合わせた物をその都度、見直している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体操をしたり、消化の良い食べ物を取り入れ便秘改善に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者一人ひとりの排泄パターンや兆候に合わせて声かけ、誘導、介助を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族と話し合って選択している。自分で管理できる利用者には、本人の希望する物を使用してもらっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	適時、使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操やマッサージ等、個々の状態に応じて取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	定期的に入浴している。体調に合わせて希望通り入浴できるよう支援している。		◎	○	利用者は、週2回入浴することができる。事業所として、入浴日と入浴時間を決めておいて、当日に利用者の体調不良や拒否する場合は、入浴できる日や時間帯を変更する対応もしている。また、利用者の希望に応じて、職員は好む入浴順や湯の温度などにも柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	プライバシーに配慮し、一人ずつ入浴している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者ができる事は見守り、介助する際は声かけながら支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	利用者の不安を取り除けるよう声かけなど、工夫し安心してから入浴してもらっている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、入浴後は見守りする中で水分補給しつつ、ゆっくり過ごしてもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録に毎日記録し、把握している。	/	/	/	事業所では、利用者が安易に服薬に頼ることなく、日中の活動や過ごし方、支援方法などを職員間で十分検討し、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、利用者が夜間に眠れない原因なども職員間で話し合い、排泄の時間帯を昼間になるように試行錯誤しながら取り組み、改善された利用者もいる。さらに、利用者の健康状態も考え、医師と相談しながら、睡眠導入剤を服用している利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたり、日光浴を取り入れる等、生活リズムを整える取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠れない時は無理強いせず見守りしている。薬剤の使用については医師と十分に相談、指導を受けている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者のその日の体調に合わせて休息、昼寝の時間を設けている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	季節の折に手紙を出している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	職員が本人の気持ちを代筆したり、代わりに電話をかけ伝えている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人希望時、電話ができるよう支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙やハガキは居室に貼り、いつでも見ることができるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	理解、協力を得ている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現在、お金は職員が管理している。(所持、困難な為)。使用する意味や大切さは理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外出時には、本人所持のお金を持参し、正しく使用できるよう支援しているが今はその機会がない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物をする際、さりげない声かけで支援したりお店の人に協力をお願いしているが、今はその機会がない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人、家族と話し合い、希望に沿った管理方法で管理している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合いはできている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	各個人のお小遣い帳を記入し、定期的に家族に確認をもらっている。本人・家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人・家族の希望を聞き取り、なるべく対応できるよう努力している。	◎	/	○	ドライブ時に、利用者の希望で自宅やお墓の近くを通るなど、職員は柔軟な対応をしている。現在のコロナ禍において、外出などの制限が設けられているが、職員は可能な限り、利用者や家族の要望にも応じている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	掲示物や植物を飾り、温かい雰囲気づくりを心がけている。	◎	○	○	事業所のある3階建ての建物は、母体医院が隣接しており、1階はデイサービスがあるほか、2階と3階の部分をグループホームとして活用している。玄関前にある駐車場は少し狭く感じるものの、花壇には夾竹桃や紫陽花が咲いていた。また、調査訪問時には、事業所の看板がわかりやすく、玄関から入るとすぐに事務所の職員が対応して出迎えてくれた。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	和風の昔懐かしい家具や小物を置いたり、利用者が作った掲示物を季節毎に張り替えている。	○	○	◎	廊下や食堂の壁には、利用者と一緒に作ったひまわりや朝顔の折り紙の花が飾られているほか、利用者の好きなお相撲さんのポスターが貼られている。共用空間には古い単管やソファが置かれ、家庭的な雰囲気を感じることができる。事業所内には不快な音や光、臭いがなく、掃除も行き届いているほか、廊下はよく風が吹き抜けるなど、快適な空間となっている。また、事業所内には日差しが差し込み、西日が当たる時間帯にはテーブルを移動して過ごすこともある。さらに、ベランダに置かれている鉢植えでは、利用者と一緒にきゅうりやトマトなどの夏野菜を栽培し、収穫して食材としても活用している。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	快適な毎日を送れるよう常に気遣いし、毎日掃除している。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節毎に飾りを変える。馴染みの音楽をかける。花や植物を飾るなど、五感を刺激する工夫をしている。	○					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テーブル席、ソファー、ベンチ等くつろげる場所を各所に設けている。	○					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレ、浴室ともプライバシーは守られている。	○					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた家具や家族からのプレゼント、写真などを飾り、本人好みの居室を作っている。	◎		◎	居室には、利用者が使い慣れた家具などを持ち込んでいるほか、家族の写真や好きな歌手のポスターを飾っている。また、職員は利用者が居心地良く過ごせるような空間づくりの支援をしている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室入口に名札、写真を貼ったり、事故や怪我に繋がらぬ物は置かないようにし、安全に過ごせるよう、さりげない見守りを行っている。				◎		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者視点で考え、工夫している。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうきや化粧品等を自発的に使える位置に置いている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しており鍵をかけていない。玄関も夜間のみ施錠している。	◎	◎	◎	訪問調査日には、玄関やユニットの入口が解放されているのを確認することができた。毎月実施する月例会時に、職員は鍵をかけることの弊害などを話し合い、理解を深めている。また、夜間は、防犯のため施錠をしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族に理解を得られており、施錠を希望する家族もいない。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	さりげなく見守りをし、エレベーターに乗ったり外に散歩に行く際には、必ず職員が同行している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員全員が把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者について感じた変化は、些細なことでも介護記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	診療所と円滑な関係が築けており、いつでも気軽に相談できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人・家族が希望する病院を受診することができるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	支援できている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	本人・家族の同意を得た上で通院、受診結果等の情報を職員間で共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際、本人に関する情報を書面や口頭で提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に訪問したり、病院関係者と話し合いを行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	訪問したり、電話で連絡を取り病院関係者との関係を築いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化に気づいた際、往診時に相談、報告している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間、相談できる体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	利用者に応じた支援体制を整えており、医師に相談し、早期発見・治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の薬歴表を確認し、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬セット時、服薬の際は間違いのないよう確認し正しく服薬できるよう見守りしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者の心身の変化を注意深く観察、確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者の状態の経過を記録し、医師に報告している。				

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合い確認共有できている。	/	/	/	事業所には、看取り指針などはないものの、入居時に重度化した場合の対応などを説明し、利用者や家族から意向を聞いている。入居後には、利用者の状態の変化に応じて、主治医や家族、職員を交えて話し合い、今後の方針を共有して支援している。また、事業所の建物には母体医院が隣接しており、24時間体制で主治医の協力が得られ、利用者や家族、職員には安心感がある。さらに、事業所では、開設から41件の看取り支援の実績がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	話し合い、確認共有できている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	把握に努め、必要に応じて主治医と話し合い、どこまでの支援が出来るか見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状況に応じた支援や状態変化に応じた専門的なケアが受けられるよう連携を図り支援していく体制が整っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や電話で思いを傾聴し、支えになれるよう努力している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	運営推進会や月例会にて感染症について学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対策マニュアルを作成し、速やかに対応できる体制を整えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	できている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	できている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員の清潔保持を徹底し、利用者・来訪者等についても支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	できている。				事業所では、納涼祭や運動会、忘年会などの行事に家族の参加協力を呼びかけて交流することができていたが、現在のコロナ禍において、開催を中止している。毎月、家族には、行事を楽しむ利用者の写真を添えて、近況を報告している。事業所として、家族に行事などの報告はできているものの、車輛の購入や職員の異動・退職などの報告までには至っていない。また、管理者は、「今後、車を使用してドライブに行った写真などを送付し、運営上のことなども報告したい」と考えている。さらに、職員は家族の来訪時や電話連絡時を活用して、気軽に希望を伝えてもらったり、相談しやすい雰囲気づくりに取り組んだりしている。さらに、家族から出された意見から、「聞きたいことアンケート」を定期的実施するなど、その結果を職員間で共有しながら、家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	×	新型コロナウイルスの感染予防の為、面会人数や時間の制限をしていた。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	新型コロナウイルスの影響で十分な機会が作れなかった。		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	季節の便りや写真を送り、利用者の近況を伝えている。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族が職員に対し、何でも質問できるような関係を築き、不安や疑問があった場合は都度、報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会時や電話にて認知症の理解、対応についての説明や働きかけを行うこともあるが、十分に理解いただけないご家族もある。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事等については、郵送にて報告している。職員の異動、退職などについては職員の意向に沿っている。		×	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	できている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	できている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約内容を出るだけ分かり易く説明し、理解・納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	体制がある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に料金の内訳を説明し、内容に変更がある場合は数か月前より設定理由を具体的に説明し、理解・同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の自治会の回覧板など利用し、理解を広げる事をしている。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、地域住民との交流は減っているものの、近隣の個人商店やケーキ屋に出かけて買い物をしたり、散歩の時に地域住民と挨拶を交わしたりするなど、少しでも交流が継続できるよう支援している。法人・事業所として、自治会へ加入し、例年地域の盆踊り大会などにも、利用者と一緒に参加していたが、現在は中止となっている。また、自宅に菖蒲が咲くと毎年声をかけてくれる地域住民がおり、利用者と一緒訪問すると休憩の場所の確保してくれたり、車いすでも通りやすいように対応してくれたりするなど、歓迎してくれ、利用者の楽しみにもなっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶は行っている。今年は新型コロナウイルスの影響もあり中止になったが、秋祭りでは地域の人達と交流を図っている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	散歩時に言葉交わす事で利用者を見守ってくれている事を感じるが増えてはいない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	今年に入って新型コロナの影響で、立ち入りをご遠慮いただいている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	野菜を育て持参していただいて、食堂でお茶を飲みながら会話をしていた。現在は出来ない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行事に参加してもらい、ふれあい相談員の方に訪問してもらい等、支援をお願いしているが、今年に入ってからは出来ない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源の活用は少ない。把握に努め、有効活用していきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を広げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近所の店に買い物に出掛けた時など、協力を得ている程度で取り組めていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	利用者の家族、市役所の方の参加はあるが、特定の方になっており人数は少ない。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、地域住民、民生委員、市担当者などの参加協力を得て開催している。現在のコロナ禍において、書面での会議開催となっている。会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況などを報告している。また、事業所では、家族から「コロナ禍で思うように面会ができなく不安がある」という意見が出され、「聞きたいことアンケート」を全ての家族に実施し、その結果を職員間で話し合いをしている。その結果、日々の出来事が分かりやすいように写真を細目に撮って小冊子にするほか、廊下に写真などを掲示して来訪した家族などにも見やすいようにするなど、職員は利用者の暮らしが家族にも感じられるよう工夫している。さらに、事業所では、家族との記念写真を撮影するなど、家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	外部評価について説明し、結果書類を配布して取組みについて報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	意見や提案は少なく、サービスに活かしたり報告等の取組みは出来ない。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	家族や地域の人達が参加しやすい時間帯に開催している。また、テーマに合った講師を招く事もある。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	報告書を作成し、公開している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日々、理念を意識し、それに近づけるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	来訪時に目に届く場所に開示している。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	不定期で職員各々が研修を受けている。				事業所では、職員のストレスチェックを実施し、必要時には対応をしている。医師である代表者は、ほぼ毎日事業所へ来訪があり、利用者や職員に声をかけている。事業所では、職員に外部研修への参加を進めたり、月例会等を活用して話し合ったりするなど、職員のスキルアップにも努めている。また、職員は、行事の準備品が必要な時などの相談すると、すぐに用意や対応をしてくれ、働きやすい職場と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	十分ではないが、取り組んでいる。希望の研修にも参加できるよう可能な限り、機会をつくっている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	支援できている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	普段から、コミュニケーションを図り意見が言い合える環境をつくっている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	理解している。				月例会時に、職員は、「利用者のサービスの改善と問題点について」などを話し合い、虐待や不適切なケアが行われないように注意しながら支援に努めている。不適切な言動を発見した場合には、管理者がその場で職員に、「こういう声をするといいのでは」などと、注意喚起している。また、職員は、「職員同士で声をかけ合うなど、注意しやすい環境である」と感じている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	定期的に話し合う機会をつくっている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士が注意をほらい見過ごさず、もし発見した際の対応方法も知っている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の現状把握に努め、問題を抱える職員へは話し合う等、行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について、正しく理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月例会にて話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在、家族からの拘束の要望はない。				

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修会や勉強会など受け、理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	制度が必要な場合は、情報提供し支援している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	専門機関と連携し、制度を利用している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	救急マニュアルを作成し、直ぐ見られるようにしている。内容についても周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修や勉強会で訓練を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事例が起きた場合はヒヤリハットを作成し、職員間で話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状況に応じてリスクを話し合い、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	意見を頂いた際には、速やかな対応を心がけ、必要時には市役所窓口にも問い合わせしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	納得のいく解決法と、より良い関係づくりに向けて話し合いを大切にしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	×	運営推進会やふれあい相談員の方と話す機会を設けているが、今年はコロナの影響で出来ない。			◎	日々の暮らしの中で、職員は利用者から意見や要望を聞いている。意見などを伝えにくい利用者からは、表情や態度から思いを汲み取るなどの対応をしている。家族の来訪時には、職員から声をかけて意見や要望を聞くようにしているほか、「聞きたいことアンケート」を実施して職員間で話し合い、柔軟に対応している。また、管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に、職員と話しやすい環境づくりをしており、日々の意見をもとにして月例会時に職員間で話し合い、利用者本位の支援を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会や来訪時、または電話にて個別に聞いている。		◎		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	案内している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月例会時に職員から意見や提案を聴き、検討している。			◎	

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全員で取り組んでいる。				外部評価の自己評価の作成は、ほぼ全ての職員で取り組んでいる。サービスの評価結果と目標達成計画の内容は、運営推進会議の中で報告できているものの、取り組み状況の確認などのモニター機能にまでは至っていない。今後、コロナ禍の終息後には、運営推進会議のメンバーや家族に協力を呼びかけるなど、モニター協力の実施を職員間で検討することを期待したい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにする事で、今後に活かす事が出来ている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組んでいる。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議に報告している。モニターをしてもらう取り組みは出来ていない。	○	△	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みを報告している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時対応マニュアルを作成し、職員全員が周知している。				法人・事業所として、金生町内会と近隣防災協定を締結し、相互応援の約束をしている。事業所として、年2回避難訓練を実施するほか、シェイクアウトえひめなどの訓練にも協力している。また、管理者は、「コロナ禍の終息後には、避難訓練へ家族や地域住民の参加を呼びかけて実施できること」を検討しており、さらなる協力・支援体制の充実を期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に訓練を行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	協力を得よう願っている。		△	×		○
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	避難訓練実施時には、消防署の協力を得て行っている。地域の災害対策には取り組めていない。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーターに参加している。				事業所では、玄関に「いつでも相談に来てください」と張り紙をしているものの、現在のコロナ過もあり、この1年間には相談が寄せられていない。以前は、事業所内で認知症キャラバンメイト養成研修を開催したり、認知症カフェや子供食堂に利用者と一緒に参加したりすることができていた。また、コロナ禍終息後には、納涼祭などの行事を活用して相談ブースを設けたり、他の事業所と協力ながら認知症の勉強会を実施したりするなど、少しずつ地域のケア拠点として活動できることを期待したい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	窓口を開いている。			◎		○
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行事を開放し、交流の場として活用してもらっているが、今年はコロナの影響にてできていない。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	毎年、中学生の職場体験学習を受け入れているが、今年はできていない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	困った時には、市や包括支援センターに相談して連携をしている。					○

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 9名	(依頼数) 12名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870800202
事業所名 (ユニット名)	グループホームレオナ 3階ユニット
記入者(管理者) 氏名	石川 千寿子
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>自分らしく生きていく(生きる喜びを感じられる生活にしていきたい。ありがとうが言い合える心豊かな関係を作りたい。個性を尊重し人の嫌がる事をしない。地域社会の一員になる。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>継続性を持って取り組み 意見や提案を言いやすい関係作りを目指したが、人との交流の機会が減りまだまだ十分できていないと思います。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のある3階建て建物は母体医院に隣接しており、1階にはデイサービスがあるほか、2階と3階の部分をグループホームとして活用している。開設から20年経過した事業所は住宅街に位置し、現在のコロナ禍においても、利用者が事業所周辺を散歩したり、個人商店などに買い物に出かけたりすることができおり、出会った場合には地域住民から声をかけてもらうなど、地域に根づいた事業所となっている。事業所の1ユニットの利用定員数は6名で、利用者と職員が明るく楽しそうに話しをする様子が見られ、家庭的な居心地良さを感じることができた。また、事業所の各ユニットでは、利用者同士や職員同士、利用者と職員が良好な関係で、「お互いに笑顔で『ありがとう、ご苦労様』など声をかけ合い、6人のお母さんと生活をしているような職場」との話しを聞くことができた。さらに、法人では、2003年の事業所の開設時から、介護情報発信の目的として「レオナ新聞」を作成し、ホームページに掲載しているほか、小冊子にもしている。新聞には、心温まるような職員と利用者の関わりや職員の日々の思いなどが掲載され、ほろりと感じる内容となっている。</p>
---	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の介護において、コミュニケーションを図り、気持ちを汲み取っている。	◎	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から思いや意向などを聞き取り、センター方式のアセスメント表に記録している。また、日々の関わりの中で、職員は利用者から情報を聞くこともあり、新たに得た情報は、更新時に追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者の立場に立った考えを基本としている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時には家族や知人に積極的に話しかけ、本人を知る努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	アセスメント表を作成しその中に記録をしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	カンファレンスで職員同士意見を出し、家族にも話を聞くようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族やそれまで担当していたケアマネ等、情報を得るようにしている。	/	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過などの聞き取りをしている。入居前にも、職員は以前担当していた介護支援専門員からも情報を聞くこともある。また、把握した情報はアセスメント表に記録しているほか、新たに得た情報は、更新時に追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来る事、出来ない事シートを記入し、現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の介護や家族の話等聞き、把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の介護や家族の話等聞き、把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一人一人個別に把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人の立場に立ち検討している。	/	/	○	事業所では、日々の関わりの中で得た利用者の情報のほか、家族からの意見を基にして、カンファレンスを活用して職員間で話し合い、利用者の視点に立ったサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	出来ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームレオナ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	出来ている。				事前に、職員は利用者や家族から、より良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などの希望や意向を聞き取るほか、主治医の助言をもらうことができている。また、事前に得た情報を基にして、カンファレンス時に職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に意見を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族等の意見を聞き、ケアに繋がるよう作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	努力している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	必要な物を家族に用意してもらったり協力してもらっている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	共有している。				◎ 介護計画の内容は、カンファレンス時に職員間で共有しているほか、個別ファイルにも計画を挟み、職員はいつでも内容を確認することができる。◎ 介護計画の内容が転記されているA3サイズの個別の介護計画チェック表には、1か月間分のケアの実施記録やチェックができ、職員は毎日のサービスの実施記録を残し、翌日の支援につなげている。また、利用者の日々の暮らしの様子や支援した内容は、個別の介護記録にも記載され、利用者の発した言葉が多く残されているのを確認することができた。さらに、職員は利用者一人ひとりの気づきや工夫などを、個別のモニタリング表や申し送りノートにも記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護記録に細かな事を記入し、モニタリングにまとも状況確認し支援している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	毎日介護記録に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	モニタリングに職員の気づきを記録している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	行っている。				◎ 介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。必要に応じて、2か月など早期に見直すこともある。また、職員は毎月利用者の現状を確認し、モニタリング票に記録しており、利用者の変化や新たな要望なども把握している。さらに、利用者の心身の状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度主治医の助言を得るほか、家族の意向を確認して職員間で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	行っている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	必要な時はその都度見直し計画を立てている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	都度行っている。				◎ 事業所では、毎月実施する月例会を活用して、利用者の課題解決などの話し合いをしている。緊急案件がある場合には、その都度各ユニットの管理者が話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、会議の資料を見てもらいながら、伝え忘れがないよう2名体制で口頭での伝達もしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	工夫している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	参加しやすい日時を調整している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	伝言漏れが無いよう、2人以上で報告している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	ノートや確認印で共有している。				◎ 日々の申し送りを活用して、伝達をしている。また、申し送り事項は申し送りノートにも記録し、職員は出勤時等にノートを確認して、押印またはサインをする仕組みができている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートに記入し、必ず目を通すようにしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	会話の中で希望を引き出し行うよう努力している。	/	/	/	利用者に着たい服やレクリエーション、食べる時に使用する箸など、職員は利用者が自己決定できるような声かけをしている。自己決定の難しい利用者には、職員が選択肢を絞って声をかけるなどの工夫をしている。また、訪問調査日には、利用者が若い頃にしていた仕事を、他の利用者や職員と一緒に楽しそうに話したり、職員の声かけで利用者が活き活きとベダルこぎをしたりする様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	一方的に決めるのではなく、いくつか選択肢を用意し選んでもらうなどしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	「これで良いですか」「どうですか」と問うようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人一人に合わせている。時間はだまかにしか決まっていない。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の声が聞けるよう言葉かけに工夫している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	様子観察を怠らず、時間をかけ対応している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	一人一人を尊重した言葉遣いや態度を心掛けている。	/	◎	◎	毎月の月例会を活用して、人権や尊厳などを職員間で話し合い、日々利用者の誇りやプライバシーを大切にされた声かけや態度を意識した行動をとっている。トイレ誘導時には、職員が利用者の耳元でさりげない声かけをしている。また、職員は、居室をプライバシーのある専有の場所であることを理解しており、居室への入室時には必ずノックや声かけをして、利用者の了承を得てから入室している。さらに、訪問調査日には、換気のため、ドアを開放している居室も見られた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	配慮し対応している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	行っている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	十分注意している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	出来る事は何でもしてもらい、一種にしてくれた事への感謝を伝えるようにしている。	/	/	/	利用者同士の仲は良く、日中は食堂で楽しそうに過ごしている。時には仲が良すぎて、些細なことでトラブルになる場面も見られることもあるが、職員はすぐに利用者同士を引き離すことなく、間に入って双方の話を聞くなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士で取り組む機会を作り、支え合う暮らしができるようにしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	◎	食堂で皆で過ごす時間を作り、孤立しないようにしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	時には距離を置くなど工夫している。	/	/	/	

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人や家族からの情報を基に、把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人や家族からの情報を基に、把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	ドライブで本人がよく知っている場所を通るなどしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居心地良く過ごせるよう努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	天気の良い日の散歩や近所の商店への買い物など行っている。	○	△	○	現在のコロナ禍において、事業所では利用者の外出制限を設けているものの、利用者の希望に応じて、事業所周辺を散歩したり、近くの個人商店にパンやバナナなどの買い物に出かけたり、お店にケーキを買いに行くなど、職員は可能な外出支援をしている。また、車いすの利用者も一緒に散歩に出かけたり、事業所前の駐車場に出て、日光浴をしたりするなど、気分転換ができるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	職員や家族のみで行っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	車椅子で屋外で過ごしている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	県外の娘さんのところへ行った事もある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ひとつの事に固執する方に気分転換してもらうなど、さまざまな工夫をしている。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりの「できること・できないこと」を把握してシートに記録し、職員間で共有している。職員は、利用者のできることやできそうなことには極力手を出さず、一緒にしたり見守りをしたりしている。また、入浴時には、「洗髪は、髪が長いので職員が行う。洗身は、タオルに石鹸をつけて手渡すと、自分で洗う。届かない部位や洗身不十分な部位は、職員が洗う。」などの記録に沿って、職員は支援することができている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	体操だけでなく、レクリエーションやリハビリの中に取り入れている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	一緒に行うようにしている。(雑巾縫い、干し柿作り等)	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	以前行っていた仕事や趣味に関する事を把握し活用している。	/	/	/	野菜の皮をむいたり、洗濯物をたたんだりするなど、事業所では利用者の役割や出番がつけられるように取り組んでいる。訪問調査日には、職員の見守りの中で、利用者が献立ノートに昼食のメニューを記録している様子を見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	行っている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の中での取り組みは行っていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	毎日自分で化粧する方や、好みの色、デザインの服等把握している。				訪問調査日には、食堂に集まっている利用者が、まゆ毛の書き足しや化粧をしたり、髪にリボンをつけたり、髪をまとめてシュシュを飾るなど、利用者が華やかな服を着て、おしゃれを楽しみながら話している様子を見ることができた。また、整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員が利用者に声をかけて、さりげなくカバーをしている。散髪は、2か月に1回訪問美容を活用したり、馴染みの美容室に出かけて整容したりする利用者もいる。さらに、重度な状態であっても、職員は好みの髪形や服装を家族に聞くほか、利用者の昔の写真を参考しながら、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	化粧道具の用意や希望の「服」の選択など支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	おしゃれ着や外出時の帽子、ストール、持ち物など支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	身だしなみはさりげなく整えるようにしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	ボランティアを利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	服のデザインなど本人の好みを尊重している。			◎	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	行っている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	出来ることは少しずつでもしてもらっている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	つくしを取ってきたり、ベランダ菜園のちょっとした野菜を使用したりしている。						
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人一人に合わせて工夫している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族に用意してもらっている。			◎			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	行っている。			△			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	台所の近くで入居者は過ごしており、匂いや音を感じ会話に話題としてあがっている。	◎		◎			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人一人の状態に合わせて行っている。						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	好きな物や、その時に食べられるものを用意し、時には出前を取るなど工夫している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	保健士に講習を受けたり話し合っている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	努めている。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。				入居時に、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握し、口腔ケアアセスメントシートに記録している。変化が見られた場合には、その都度追記して職員間で共有している。また、毎食後、利用者は歯磨きを行い、職員は声かけや磨き残しなどのフォローをしているほか、口腔内の状況も確認している。さらに、利用者の口腔内の状態に応じて、糸ようじや歯磨きティッシュなどの用品を用いた介助をすることもある。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔アセスメントを行っている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	講習を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後、口腔ケアを行いチェックしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解している。				事業所では、利用者がトイレで排泄することを基本として支援している。重度でも、座位が保持できる利用者には、日中には紙おむつからリハビリパンツに履き替えてもらい、2人体制で排泄介助をする取り組みもしている。また、職員は利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握して、声かけや誘導をするほか、その時々状態に合わせて、適切な紙パンツやパッドなどの排泄用品を使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	介護記録を活用し理解している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	自力で起立出来ない方も2人介助でトイレに座ってもらうなどしている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	トイレ誘導のタイミングや間隔を変えてみるなど改善への取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	パットの種類、昼と夜での使い分けなど行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	青汁や黒酢を飲用したり、腹部マッサージ、運動等行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	曜日は決まっているが、その他の希望に添えるようにしている。	◎		○	利用者は、週2回入浴することができる。事業所として、入浴日と入浴時間を決めておいて、当日に利用者の体調不良や拒否する場合は、入浴できる日や時間帯を変更する対応もしている。また、利用者の希望に応じて、職員は好む入浴順や湯の温度などにも柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声掛け(家族の名前を出す)、環境(暖かくする等)工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護計画、ケアプランに取り込む等、把握している。	/	/	/	事業所では、利用者が安易に服薬に頼ることなく、日中の活動や過ごし方、支援方法などを職員間で十分検討し、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、利用者が夜間に眠れない原因なども職員間で話し合い、排泄の時間帯を昼間になるように試行錯誤しながら取り組み、改善された利用者もいる。さらに、利用者の健康状態も考え、医師と相談しながら、睡眠導入剤を服用している利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動を増やしたり、眠前に暖かい物を飲む等工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	医師とも相談し、薬の服用は慎重に考えている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個別に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	頻繁に手紙のやりとりをしている方や、電話は自由にかかけられる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	保管し、顔と名前が一致するようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族も手紙をかいてくれている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	近所の商店に行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	おこづかい帳を確認してもらったり面会時に報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ボランティアの活用等行っている。	◎	/	○	ドライブ時に、利用者の希望で自宅やお墓の近くを通るなど、職員は柔軟な対応をしている。現在のコロナ禍において、外出などの制限が設けられているが、職員は可能な限り、利用者や家族の要望にも応じている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	花を植えたり、看板を出したりしている。	◎	○	○	事業所のある3階建ての建物は、母体医院が隣接しており、1階はデイサービスがあるほか、2階と3階の部分をグループホームとして活用している。玄関前にある駐車場は少し狭く感じるものの、花壇には夾竹桃や紫陽花が咲いていた。また、調査訪問時には、事業所の看板がわかりやすく、玄関から入るとすぐに事務所の職員が対応して出迎えてくれた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	花を飾ったり、季節の飾りを置いたりしている。		○	○	廊下や食堂の壁には、利用者と一緒に作ったひまわりや朝顔の折り紙の花が飾られているほか、利用者の好きなお相撲さんのポスターが貼られている。共用空間には古い単管やソファが置かれ、家庭的な雰囲気を感じることができる。事業所内には不快な音や光、臭いがなく、掃除も行き届いているほか、廊下はよく風が吹き抜けるなど、快適な空間となっている。また、事業所内には日差しが差し込み、西日が当たる時間帯にはテーブルを移動して過ごすこともある。さらに、ベランダに置かれている鉢植えでは、利用者と一緒にきゅうりやトマトなどの夏野菜を栽培し、収穫して食材としても活用している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	配慮している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	工夫している。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	廊下にソファを置いてくつろいでいる。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	戸を開けている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	筆筒や写真をもって来てもらったり、ドレッサーを置いている人もいる。	◎			居室には、利用者が使い慣れた家具などを持ち込んでいるほか、家族の写真や好きな歌手のポスターを飾っている。また、職員は利用者が居心地良く過ごせるような空間づくりの支援をしている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや風呂には分かりやすく名前を貼っている。				◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	工夫している。				事業所では、利用者に分かりやすいよう、トイレに「便所」の表札を出している。居室の入口には表札を掛けるほか、利用者の顔写真を写真を飾るなど、事業所では、利用者が迷わずに可能な限り自立した生活が送れるよう工夫している。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	本や趣味の品等置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	月例会で話し合い理解を深めている。		◎	◎		訪問調査日には、玄関やユニットの入口が解放されているのを確認することができた。毎月実施する月例会時に、職員は鍵をかけることの弊害などを話し合い、理解を深めている。また、夜間は、防犯のため施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	◎	鍵をかけている方はいない。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	防犯上の施錠のみ行っている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医に都度相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族の合意を得て共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	都度相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	早期発見出来るよう様子観察し、申し送り継続出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬歴管理票で理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	日付、名前を読み上げ2名で確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	情報提供している。				

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時、状態変化時等に話し合っており共有している。(アセスメント等に記入)	/	/	/	事業所には、看取り指針などはないものの、入居時に重度化した場合の対応などを説明し、利用者や家族から意向を聞いている。入居後には、利用者の状態の変化に応じて、主治医や家族、職員を交えて話し合い、今後の方針を共有して支援している。また、事業所の建物には母体医院が隣接しており、24時間体制で主治医の協力が得られ、利用者や家族、職員には安心感がある。さらに、事業所では、開設から41件の看取り支援の実績がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	十分説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	声かけや会話を多く持ち、日頃から言い易い雰囲気を作っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	ホーム内で感染対策委員があり、学びの場をもうけている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染対策のマニュアルがあり、それに従うようになっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染対策の動画を見て情報を得ている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員からの声かけや、貼り紙等行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	築いている。				事業所では、納涼祭や運動会、忘年会などの行事に家族の参加協力を呼びかけて交流することができていたが、現在のコロナ禍において、開催を中止している。毎月、家族には、行事を楽しむ利用者の写真を添えて、近況を報告している。事業所として、家族に行事などの報告はできているものの、車輛の購入や職員の異動・退職などの報告までには至っていない。また、管理者は、「今後、車を使用してドライブに行った写真などを送付し、運営上のことなども報告したい」と考えている。さらに、職員は家族の来訪時や電話連絡時を活用して、気軽に希望を伝えてもらったり、相談しやすい雰囲気づくりに取り組んだりしている。さらに、家族から出された意見から、「聞きたいことアンケート」を定期的実施するなど、その結果を職員間で共有しながら、家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	退所した家族の方も訪れてくれるなど、雰囲気作りはできている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事への参加機会が多い。		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	写真に一言添えて個人の近況が分かるようにしている。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族が知りたい事のアンケートをとって報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	職員の移動は行っていない。		x	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	行事の参加は多いように思う。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	体力の低下や転倒の危険性など、考えられる事は都度行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	積極的にしている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明は丁寧に行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去事例はないが、体制は整えている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明を行い同意書を作成している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会への参加を呼び掛けている。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、地域住民との交流は減っているものの、近隣の個人商店やケーキ屋に出かけて買い物をしたり、散歩の時に地域住民と挨拶を交わしたりするなど、少しでも交流が継続できるよう支援している。法人・事業所として、自治会へ加入し、例年地域の盆踊り大会などにも、利用者と一緒に参加していたが、現在は中止となっている。また、自宅に菖蒲が咲くと毎年声をかけてくれる地域住民がおり、利用者と一緒に訪問すると休憩の場所の確保してくれたり、車いすでも通りやすいように対応してくれたりするなど、歓迎してくれ、利用者の楽しみにもなっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	行事の案内、行事へは気持ち良く参加、協力してもらっている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	散歩中はよく挨拶してくれる。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	挨拶、一言話をするなど気にかけている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	野菜を持って来てくれたりすることもある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事等の支援はしてもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くの商店に買い物に行ったり、移動販売着てくれる。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加してもらっている。	/	○	○	運営推進会議は、利用者や家族、地域住民、民生委員、市担当者などの参加協力を得て開催している。現在のコロナ禍において、書面での会議開催となっている。会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などを報告している。また、事業所では、家族から「コロナ禍で思うように面会ができなく不安がある」という意見が出され、「聞きたいことアンケート」を全ての家族に実施し、その結果を職員間で話し合いをしている。その結果、日々の出来事が分かりやすいように写真を細目に撮って小冊子にするほか、廊下に写真などを掲示して来訪した家族などにも見てもらいやすいようにするなど、職員は利用者の暮らしが家族にも感じられるよう工夫している。さらに、事業所では、家族との記念写真を撮影するなど、家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告してもらっている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	出された意見は職員で話し合い向上できるように努めている。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	夕方にしったり昼過ぎにしったりと変更してみてもらい易い時を調整している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	家族に郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念に沿って介護、支援が出来るよう日々努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は分かり易い言葉でパンフレット等に記載している。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修の案内は随時行ってくれる。希望に沿って受けられる。	/	/	/	事業所では、職員のストレスチェックを実施し、必要時には対応をしている。医師である代表者は、ほぼ毎日事業所へ来訪があり、利用者や職員に声かけをしている。事業所では、職員に外部研修への参加を進めたり、月例会等を活用して話し合ったりするなど、職員のスキルアップにも努めている。また、職員は、行事の準備品が必要な時などの相談すると、すぐに用意や対応をしてくれ、働きやすい職場と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市内のグループホーム協会は解体したが、勉強会は参加出来る。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	声かけや相談し易い雰囲気がある。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	理解している。	/	/	/	月例会時に、職員は、「利用者のサービスの改善と問題点について」などを話し合い、虐待や不適切なケアが行われないように注意しながら支援に努めている。不適切な言動を発見した場合には、管理者がその場で職員に、「こういう声かけをするといいいのでは」などと、注意喚起している。また、職員は、「職員同士で声をかけ合うなど、注意しやすい環境である」と感じている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	委員会があり話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルがあり認知している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族の理解が得られるよう話し合いをしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	家族参加の講習を行う等支援している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連携出来るようしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルがあり周知している。新しい職員への研修も必要。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に行っている。かかりつけ医の指導もある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットの記入、改善策の検討もある。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	カンファレンス時や随時行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	月例会で家族のちょっとした一言を話し合い、苦情対応に繋げるようしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会への参加や傾聴ボランティアの方にも来てもらっている。			◎	日々の暮らしの中で、職員は利用者から意見や要望を聞いている。意見などを伝えにくい利用者からは、表情や態度から思いを汲み取るなどの対応をしている。家族の来訪時には、職員から声をかけて意見や要望を聞くようにしているほか、「聞きたいことアンケート」を実施して職員間で話し合い、柔軟に対応している。また、管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にして、職員と話しやすい環境づくりをしており、日々の意見をもとにして月例会時に職員間で話し合い、利用者本位の支援を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時に会話を多く持ち、聞く機会を作っている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	作っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	検討している。			◎	

愛媛県グループホームレオナ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				外部評価の自己評価の作成は、ほぼ全ての職員で取り組んでいる。サービスの評価結果と目標達成計画の内容は、運営推進会議の中で報告できているものの、取組み状況の確認などのモニター機能にまでは至っていない。今後、コロナ禍の終息後には、運営推進会議のメンバーや家族に協力を呼びかけるなど、モニター協力の実施を職員間で検討することを期待したい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	活かしている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	モニターは無い。	○	△	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会で行っている。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルの作成、周知している。				法人・事業所として、金生町内会と近隣防災協定を締結し、相互応援の約束をしている。事業所として、年2回避難訓練を実施するほか、シェイクアウトえひめなどの訓練にも協力している。また、管理者は、「コロナ禍の終息後には、避難訓練へ家族や地域住民の参加を呼びかけて実施できること」を検討しており、さらなる協力・支援体制の充実を期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	計画的に行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	合同訓練に参加している。		△	×		○
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	合同訓練に参加している。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	認知症サポーター研修に参加してり、ホームで開催している。				事業所では、玄関に「いつでも相談に来てください」と張り紙をしているものの、現在のコロナ過もあり、この1年間には相談が寄せられていない。以前は、事業所内で認知症キャラバンメイト養成研修を開催したり、認知症カフェや子供食堂に利用者と一緒に参加したりすることができていた。また、コロナ禍終息後には、納涼祭などの行事を活用して相談ブースを設けたり、他の事業所と協力ながら認知症の勉強会を実施したりするなど、少しずつ地域のケア拠点として活動できることを期待したい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談に来られた方には支援している。			◎		○
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行っていないが考えている。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	中学生の受け入れ等行っている。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	子供食堂への参加を行った。					○